

原宿タイムズ

HARAJUKUTIMES

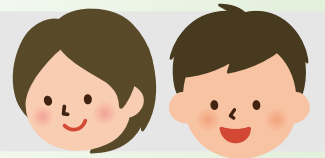
vol.8

2017
春

特集 **ドクターコラム** (名誉院長 林先生、武井先生)

行事報告
研修報告
学術活動
防災活動
歯科コラム





名誉院長 林 泰史先生

【専門】リハビリテーション医学、整形外科、老年病学
【略歴】昭和39年 京都府立医科大学医学部卒業
平成14年 東京都老人医療センター病院長
平成18年 東京都リハビリテーション病院院長

骨折後のリハビリテーション

最近では、骨が脆く転び易いために骨折し易くなっている高齢者が増えています。当院では約半数が骨折後の体の働きを回復しようとする入院患者さんで占められています。

カルシウムを含んでいる骨は①のように丈夫さを活用して脳や肺を護ったり、脚や背骨で体を支えています。神様は人間を創る際、カルシウムに体内60兆個の細胞を働かせて生きていくのにも役立たせました。高齢者では食事量と共にカルシウムを摂る量が減りますので体を護り支えるより、生きていくのに骨のカルシウムを削って細胞を働かせますので骨が脆くなるのです。

一方、高齢者は判断能力の低下、遠近両用眼鏡の使用で転び易くなっているうえ、足腰の筋肉の弱まりで若い人の2~3倍も大きく体がふらつき、それに対して安全に立ち続ける能力が約1/3に減って転び易くなっています。

高齢者の骨折で多い大腿骨頸部・転子部骨折では②の様な治療がされますが、約94%の患者さんは手術を受けられ、その後にリハビリテーションが必要となります。骨折後のリハビリテーションを食事に例えますと、「前菜」としては③のように足首など固まり易い関節を曲げ伸ばしします。続いて「メインデッシュ」としては起き上がり、座位、立ち上がり、歩行、応用動作のトレーニングをします。最後の「デザート」と「コーヒー」に相当するのが骨折後に4倍にも増える再骨折を予防するため、④のような転倒予防体操と骨粗鬆症の治療継続です。

多くの高齢患者さんは体力の低下した状態で転倒・骨折していますので、原宿リハビリテーション病院では骨折時よりも体の働きが増した状態になって戴こうと努力しています。



人工骨頭脱臼予防の説明中

糖尿病について

糖尿病の総患者数は1,080万人を超え、さらに今後も高齢者社会と相まって増加が確実に見込まれる現状である。

また、その合併症は多岐に亘りQOLをそこなう腎臓、神経、眼に生じる典型的な合併症に限らず、死にも直結する脳血管障害、心疾患、足壊疽で代表とされる閉塞性動脈硬化症、など生命に関わる病態、その他全身の各部位に糖尿病と関係する合併症が生じる可能性がある。

糖尿病の病態把握を行い、初期より糖尿病の予防に努め、一度糖尿病と診断されれば、的確な病状把握と対応策を考え、長期的に必ず起こってくる合併症管理に至るまで精査を施行する。程度に応じた臨機応変に治療を行うとされている。

今回は糖尿病全体の概略を述べることにする。

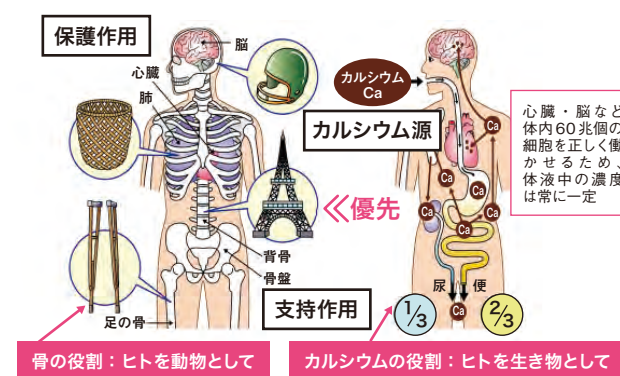


院内糖尿病勉強会の様子

武井 泉先生

【専門】糖尿病
【略歴】昭和51年 慶應義塾大学医学部卒業
平成19年 東京歯科大 内科教授
平成19年 慶應義塾大学医学部 内科客員教授

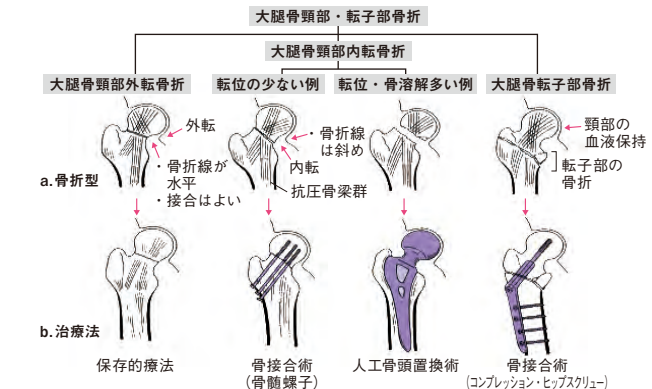
①骨の強さ・骨の3つの役割・カルシウム源として



③骨折後のリハビリテーションの第1歩ー足関節の運動



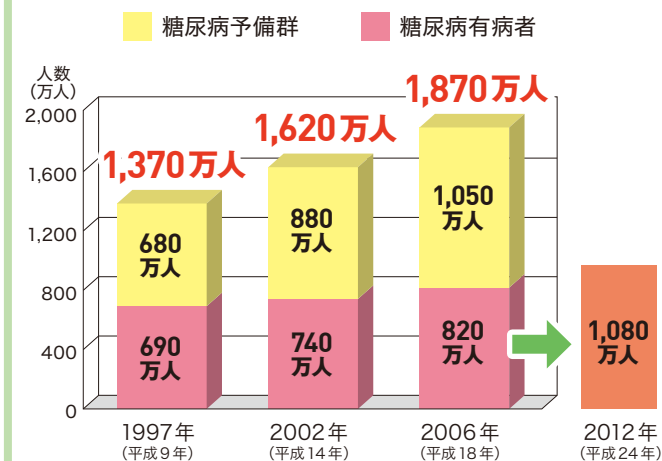
②高齢者の骨折で多い大腿骨頸部・転子部骨折の治療



④骨折後のリハビリテーションの最後に転倒予防体操



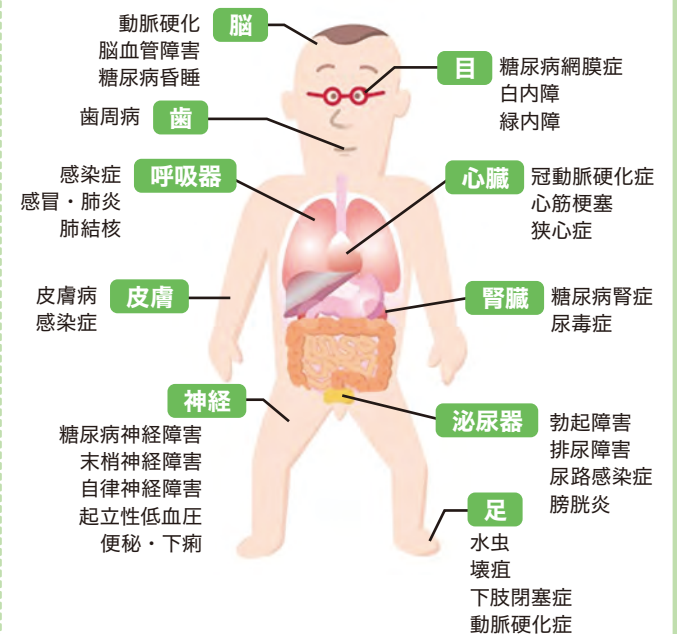
①糖尿病患者数の推移



予備群：HbA1c5.5%以上6.1%未満の者。
ただし、インスリン使用・血糖降下薬服用者を除く
有病者：HbA1c6.1%以上のもの、
またはインスリンまたは血糖降下薬服用者

厚生労働省：平成18年 国民健康・栄養調査結果の概要より

②糖尿病の主な合併症



原宿リハビリテーション病院

大新年会

～感謝の集い～



平成29年1月24日(火)に渋谷区にあるセルリアンタワーにて、新年会を開催しました。当日は、約600名の参加があり、各界から多くの方々へご参加を頂きました。

余興や大抽選会といった催し物、豪華な食事やお酒で、会場は大いに盛り上がりました。

また今年は「感謝の歌」と題して、ソプラノ歌手の坂井田真実子さんに、ヴェルディ作曲の歌劇、椿姫より「乾杯の歌」など3曲を歌って頂きました。明るさ、華やかさ、力強さがあり、1年の初めに相応しい門出となりました。また参加者一同、新たな気持ちになることが出来ました。今年も職員一同、質の高い安心、安全なリハビリテーション医療のために努めて参りますので、応援のほど、よろしくお願い致します。



2/3



節分の豆まき

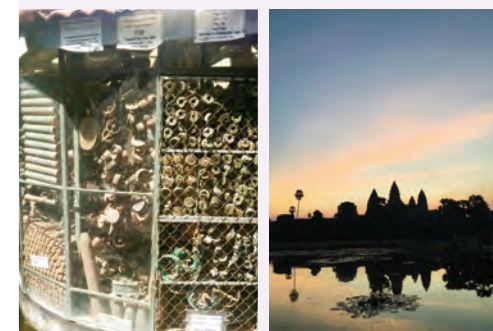
平成29年2月3日(金)当院にて、節分の豆まきを行いました。

節分に豆まきを行う理由は、季節の変わり目には邪が入りやすいとされており、その邪気を払うために行うことのひとつが豆まきとされているそうです。

今後も季節感を大事にしたイベントを定期的に行い、患者様にとってより良い入院生活になるように努めていきたいと思っております。



研修報告①



カンボジア小児病院研修

リハビリテーション科 原 昌彰

平成29年1月27日～31日で、ベトナムのホーチミンを経由し、半日かけてカンボジアのシェムリアップへ。到着時には熱帯気候特有である東南アジアの絡みつくような熱く重たい空気とその匂いに包まれ、長距離移動をしてきたことを実感しました。街のあちらこちらにネオンや豪華なホテルが立ち並び、道路にはきれいにアスファルトが敷かれ、欧米人の歩く姿も目立ち、観光産業で成り立つこの地と人が活気づいていることがみてとれました。

翌朝から他病院・九州からの参加者とも交流をしながら遺跡の見学が始まり、日中の日差しは強烈で、肌が焼け汗が流れ出る感覚を徐々に得ました。小児病院主催のパーティーに参加し、パーティーは盛大で参加者も多く、料理も豪華で、生バンドの演奏によるダンスタイムも熱狂的でした。

他には地雷博物館が印象的でした。長期内戦の爪跡として今もまだ除去が終わっておらず、完全に安全になるまで何年かかるかわからないとのことでした。そこに展示されていた下肢装具にも衝撃を受けました。

小児病院の視察では、患者である子供たちの疾患は今では内戦の影響ではなく、癌や内科的な疾患が多く、それは手遅れの状態で来ることも少なくないとのことでした。また遠方から来た患者が待合室で夜を明かす環境である反面、子供に親が作った食事を食べさせる為に大きな共同の台所があることや、水道水をそのまま飲水出来る設備が整っていたことに、充実したハード面とのギャップに驚き、現地医療の現実も垣間見ました。

今回の研修で、自分のいる環境がいかに恵まれているかを実感する機会にもなりました。今後は改めて自分の専門性を高め、困っている方々の助けになることが出来るよう、精進していきたいと思います。

研修報告②

関東カマチグループ医療連携室 面談技術研修

医療連携室 丸山 由加

平成29年2月4日(土) 赤羽リハビリテーション病院にて、日本医療ソーシャルワーク学会会長 大垣 京子先生による研修会「対人援助職の心構え～面接を通して援助する～」が開催されました。

研修では、解決構築の考え方・面接技術の講義と、実際に面接技術を用いたグループワークが行われました。

解決構築とは、患者様の成功体験に視点を置く考え方です。退院支援の中で、私たちは「どのような動作ができないのか」「退院先の自宅にはバリアがあるのか」と、課題の発見に重きを置きがちです。しかしそれだけでなく、患者様やご家族がこれまで課題をどう乗り越えてきたか、どんな成功体験をしてきたかに焦点を充てるのが、解決構築の考え方です。

また、面接を通してソーシャルワーカーは、患者様を認め、肯定し、患者様自身の力で未来に向かっていくお手伝いをします。そのような面接を実現する為に必要な“傾聴”の技術を学び、グループワークで実際に体験しました。研修内容を活かした技術で話を聞いてもらおうと、「自分の話が理解してもらえた」と感じることができました。

今回の研修で、患者様の自立支援に繋がる面接技術こそが、ソーシャルワーカーの専門性だと改めて意識できました。研修で学んだ対人援助職の心構えを活かし、患者様が退院後の生活に希望がもてる面接を目指していきます。



学術活動

2/25



当院3階病棟が演題発表にて銀賞を受賞しました

関東カマチグループ合同学術研究大会に参加して

5階看護師 武藤 史枝

今回合同学術研究会に参加し、様々な発表を聞くことができました。

その研究の中で一番興味深かったのは蒲田リハビリテーション病院のトイレ動作の観察の視点の統一を目指した取り組み～全員参加で患者を把握し助する～でした。私自身も回復期リハビリテーション病院で働く中でトイレ動作は見守りの患者さん自身に行ってもらったほうがいいのか介助したほうがいいのか迷うことがあり患者様からも手伝ってくれる人と見ていてだけの人がいる

けどどうしたらいいか聞かれたことがあったからです。

研究方法として排泄表にトイレ動作の観察項目を追加し導入していきスタッフアンケートにより有効が94%を占めたというものでした。この研究を通して情報収集手段が統一されることで患者の能力に対する共通認識ができることがわかりました。

今回のような実際の臨床場面で行かせる取り組みを今後病棟に持ち帰り、導入していきたいと思いました。

防災活動

2/28



夜間時想定防災訓練

平成29年2月28日(火)に当院9階にて、夜間時想定防災訓練を行いました。

夜間帯でも起こりうる災害に対して少人数でも連携を取り、速やかに患者様・ご家族様の避難が出来るように、避難経路や防災設備等の確認と準備を行いました。業務中にも関わらず多くの参加を頂き、各々の防災意識も高まったと思います。

今後も定期的に防災訓練を行い、職員の防災に関する知恵を深めていきたいと思っています。



歯科コラム「知覚過敏ってどうして起きるの…？」

普段使っている歯磨き粉の成分を見てみましょう。



知覚過敏とは冷たいものや温かいもので歯の神経が過敏に反応してしまうことをいいます。
歯をコーティングしているものがはがれ、歯の神経の部屋がむき出しになってしまうことで起きます。
知覚過敏の原因となるいくつかの原理を紹介します。



1 力を入れ過ぎた歯磨き

力を入れて歯を磨く、硬すぎる歯ブラシや古い歯ブラシを使い続けると歯肉が傷つき神経の部屋がむき出しやすくなります。

2 歯ぎしり

ストレスやかみ合わせの異常で歯ぎしりをすると、奥歯には体重以上の力がかかりしみやすくなります。

3 歯周病

歯周病が進行すると、歯茎が下がってしまい歯の根元の部分が露出してしまい知覚過敏が起きやすくなります。



予防するには…『**硝酸カリウム**』が入っている歯磨き粉の使用をお勧めします!!
また、自己判断するのではなく歯がしみたら歯科医院へ受診しましょう。

江東リハビリテーション病院 オープニング スタッフ募集

平成29年
10月
オープン予定

総勢200名以上の新規採用を予定!!
たくさんのご応募お待ちしております!

募集職種

医師・看護師・准看護師・看護補助者
社会福祉士・薬剤師・管理栄養士

【所在地】

東京都江東区北砂2-15-27 ハビリス西大島201号室
江東リハビリテーション病院 開設準備室

【お問い合わせ先】 TEL 03-6880-1555

ホームページのご案内

病院の詳しい内容は、ホームページでご覧いただけます。
ぜひご参照くださいませ。
グループ病院ホームページにもリンクできます。

原宿リハビリテーション病院

検索

<http://harajuku-reha.com/>



一般社団法人 巨樹の会 原宿リハビリテーション病院 広報誌

原宿タイムズ vol.8 **2017 春**
HARAJUKU TIMES

平成29年3月発行



一般社団法人 巨樹の会

原宿リハビリテーション病院
広報委員会

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6-26-1

TEL 03-3486-8333/FAX 03-3486-8334



■原宿駅 表参道口(JR山手線)より徒歩8分
■明治神宮前(原宿)駅 7番出口(東京メトロ副都心線・千代田線)より徒歩5分